製鐵所職會

主義採用

頻爐

果を及ぼす虞もあるかは暫らく局外に立つんと云ふものも之れあり差常り各區に於て區長の下役）等をして市する職工個別に對し市主旨を徹底せしめ其反こゝにしては如何其他見もありたる樣なるが

干渉の位地に

鐵所に對し挨

こしての禮儀

爲め委員を

但副議長市參事會員に充つることゝし出會したり

か

ないと云ふ

是だと憤慨

なる樣だが其の關係なる問題であるから聞き得たら儘を報道十三日加藤勘十氏が長野村八幡署長立會官と會見の際長官に一定の場所に集合せは少數の代表者を選か一途の一を擇み相に接し出來ることは其理由を明示せられたし

の中入れに對し長官長官に諮り取極の上

構内寂寞を極む

熔鑛爐の休止後の狀態

無明休業後の熔鑛爐を見舞ふべて復舊するやら三十日を要するやら實地行て見ねば分りませぬ

～二十五日午後三時過東門より入り熔鑛爐迄の間寞として人影なく其寂寞たる恰も無人の地に入るが如しで特に熔鑛爐より落下する潺々たる水聲を聞くときは身は深山幽谷に在りて暮色蒼然哀猿の聲を聞くの感じがした事務室に鵜靜技を訪ひ中止に就いての善後處置等を叩いて見に同氏の曰く熔鑛爐は吹き止めてから一週間や十日間位で繼續の出來ぬと云ふことは無ひものです併し再び吹き入れは出來ますが其作業の成績が即日から元の樣に行くことは不可能ならが夫れが二十日を經て居ることです

だから私の立場としてはそんな心配の無ひ樣にして置いて休風かしたかつたのです夫れはどうするかと云ふと鑛石の裝入量は全部熔解し了し骸炭のみ裝入として休止するのです左すれば少々日數は永引いても粘り付くと云ふ氣遣ひが無くなるから善後策として最も安全です然るに今度の休風に付いて私は是非夫の所作をしたいから意見を申出して置きましたが休業の決定に刻と熔鑛爐の作業狀態との都が甘く行かなかつたのと彼是の事情で今後の心配が

之れと相違し寧ろ加藤氏の言ふ明に近しとか同じとか言ふことである

是れ頗る奇

々怪々

事にあらずや記者は或る職員に詰つて内輪で作つた聽取書が加藤氏の口と野村署長の聽取書と相違する以上は若し之れが假に裁判沙汰とすれば判官の心證扇は確かに勞働者側に揚るであろう職員曰く夫は何とも知りませぬが長官は正しく斯く信じて居られることゝの樣に聞いて居ます

▲小原署長

大阪神戸名古屋地方の警察事務視察の途にある小原福岡署長は神戸に於て此の騷動に接し廿六日午前九時卅八分下關着列車にて急遽出返したるが門司署にては警察部長よりの電命に接し電話にて正服佩劍等を取寄せ旅裝を整ふ間もなく門司より三個分隊を引率して八幡に向へり

▲門司の應援

製鐵所の形勢益々不穩なるを以て門司署にては從來派遣せる四箇分隊の外廿六日午前十時古賀部長指揮の下に一箇分隊（十名）を增發し又水上署にても服部巡佐の兩部長を分隊長とする二箇分隊を編成し應援警戒のため同時刻八幡に急行せり

▲製鐵所の無期

休業斷行の內情

其の決心頗る强硬

將來の成行果して如何

製鐵所が突然廿五日無期休業の決定の場所に集合せ少數の代表者を選か一途の一を擇み相に接し出來ることは其理由を明示せられたし

の中入れに對し長官長官に諮り取極の上

連中にて協議決定したのではないかと思ふと言ふものもあるがまさかそんな越權の事は出來まい併しこちらで極めて嘗請したのと見るを安當とすべきか

斯かる狀況の下に作業を持續するに於ては徒らに將來生產能率益々減退するのみ

勞働振りを見るに情氣滿々にて

▲續々檢擧

製鐵所第二回の盟休に關聯して